



# IBJ\* 防除情報

第86号

(\*Ishihara Bioscience Japan=石原バイオサイエンスの略)

ご説明  
します

## 今月の特集

今月号は、果樹を加害するカメムシについて特集します。



## 果樹のカメムシ

※本内容は植物防疫講座（第3版）-害虫・有害動物編-に基づき作成しています。

農水省より2018年度の果樹カメムシ類の発生状況について東海・近畿・四国・九州の14県で平年より多くなると発表されました。発生の多かった昨年並みの発生が予測されておりますので警戒が必要です。

### 害虫としてのカメムシ類

カメムシ類は、近年になって果樹の害虫として重要視されている害虫で、かんきつ、なし、もも、かき、りんご、ぶどう等での被害が問題となっています。成虫が果実に口針を挿し込み、吸汁する事で、果皮の癒着、果肉の壊死・硬化による品質低下、変形果や落果を引き起こします。

果実に直接被害を与える事に加え、園外から長期に渡って飛来・侵入する為、防除が難しい事等も問題です。作物樹種別のカメムシ類の加害優先種は、次の通りです。

作物	害虫名	備考
かんきつ	チャバネアオカメムシ ツヤアオカメムシ	一般的にはチャバネアオカメムシは温暖な地域で、クサギカメムシは冷涼な地域で多いとされます。また、ツヤアオカメムシも暖地で多いとされますが、温暖化に伴い、関東地方まで生息域が広がっています。そのほかにアオクサカメムシも主要な果樹カメムシ類として挙げられています。
なし	チャバネアオカメムシ	
もも	クサギカメムシ チャバネアオカメムシ	
かき	チャバネアオカメムシ	
ぶどう	チャバネアオカメムシ	

# カメムシ類の生態

## ①カメムシ類の年間発生回数と越冬の形態

害虫名	発生回数	越冬の形態
チャバネアオカメムシ	1～2回/年	成虫（雄・雌共）。山林周縁部の落葉下。
クサギカメムシ	冷涼地 1回/年	成虫（雄・雌共）。家屋、作業小屋等、雨の当たらない場所。
	温暖地(一部) 2回/年	

## ②カメムシ類の生活環と果樹での防除時期

春になり、越冬場所から離脱したカメムシ類の成虫は、さくら、くわ、きり、すぎ、ひのき等で増殖しながら移動し、その間に果樹類に遷移しながら飛来し、加害します。

果樹カメムシ類は、原則的には果樹園の中では増殖できず、上述の様に果樹以外の様々な植物で増殖します。近年の多発の要因として、戦後復興～高度成長期に、毬果がカメムシ類の餌となる、すぎ、ひのきが大量に植林されたことが指摘されています。

増殖したカメムシが果樹園に飛来・侵入する条件は不明な点がありますが、果樹園外でのカメムシ類の餌の量が少なくなると、成虫の植物間での移動が盛んになり、果樹園に飛来する機会が多くなるものと考えられています。

### 《果樹での防除時期》

なし もも	5月下旬から加害が多く、幼果の被害が多い地域と、7～8月に被害が増大する地域があります。
かき	7月中旬以降カメムシ類の飛来が多くなった場合は、8月中旬～9月中旬にかけて落果が著しく、被害が増大します。
かんきつ	8月から加害が多くなり、10月中旬まで続き、幼果の落果や着色期の被害が多くなります。

## ③果樹園外でのカメムシ類の発生密度の要因

発生密度変動の要因は、気象要因、餌植物の種類・量、天敵の多寡等があげられます。

### ◆気象要因

直接の影響ではありませんが、夏の気温が高くと、その翌年のすぎの花散が多くなり、毬果が豊作となることが多く、餌に恵まれたチャバネアオカメムシが夏から秋にかけてよく増加する傾向が指摘されています。

気象による発生への影響としては、この他に越冬成虫の低温による死亡（変動有り）、幼虫繁殖期間の長雨、台風による卵塊・幼虫の脱落、飛散などによる死亡が考えられています。

## ◆餌植物の種類・量

果樹カメムシ類と餌とする植物の関係は、季節や植物の状態によって異なりますが、一般的には、**春から夏にかけては、さくら（果実、新梢）、くわ（同）、きり（新葉）**等に寄生し、**夏以降は主にすぎ、ひのき（共に毬果）**等の針葉樹に寄生します。

特に、すぎ、ひのきの毬果量とチャバネアオカメムシ・クサギカメムシの生息数との関係については、毬果の多い木では両種のカメムシの成、幼虫が多い傾向があり、すぎ、ひのきの毬果量の多い年の冬には、クサギカメムシの越冬個体が多い傾向があります。

このことから、**カメムシ類は一般的に、すぎ、ひのきの毬果量の多い年にはよく増殖し、越冬に入る個体数が多くなる**ことが判ります。

これを利用して、発生予察情報も、すぎ、ひのきの毬果量を一つの指標として検討されています。

## ◆天敵

害虫名	主たる天敵	その他の天敵
チャバネアオカメムシ	チャバネクロタマゴバチ マルボシヒラタヤドリバエ	寄生バエ、サシガメ類、クモ類
クサギカメムシ	ミツクリクロタマゴバチ クロタマゴバチ	

## ④防除法

越冬密度や指標植物上の寄生状況を調査し、果樹園へ飛来する前の発生動向を把握する事が重要です。予察灯による、成虫の誘殺頭数からも判断されます。**現在、カメムシに対する防除は、有機リン剤・ネオニコチノイド剤の他、合成ピレスロイド剤が有効とされています。合成ピレスロイド剤は、速効性が高く、忌避的効果もある為、長期にわたって園外から飛来・侵入するカメムシ類の防除には有効です。**





# 当社の推奨防除薬剤

適用害虫と使用方法（果樹のカメムシ類のみ抜粋）

## テルスタ<sup>®</sup>水和剤

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール当り 使用液量(L)	使用時期	本剤およびピフェントリンを含 む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	カメムシ類	1,000 ~2,000	200 ~700	収穫前日まで	3回以内	散布
なし					2回以内	
びわ						
かき						
もも		1,000	収穫14日前まで	2回以内		

## テルスタ<sup>®</sup>フロアブル

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	10アール当り 使用液量(L)	使用時期	本剤およびピフェントリンを含 む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	カメムシ類	3,000 ~6,000	200 ~700	収穫前日まで	3回以内	散布
なし					2回以内	
もも						
ネクタリン						
びわ						
うめ						
キウイフルーツ						
りんご		1回				
かき		3,000 ~6,000		収穫3日前まで	2回以内	





# 石原の農薬登録情報



- 2018年7月18日～8月31日までの間に登録された弊社の新農薬（適用拡大を含む）は、次の通りです。  
（下線部が適用拡大になりました。）

8月29日 適用拡大

## テッパン液剤

### <適用病害虫名の追加、変更>

- ・作物名「りんご」に適用病害虫名「ギンモンハモグリガ」、「ヒメボクトウ」を追加する。
- ・作物名「なし」に適用病害虫名「カメムシ類」を追加する。
- ・作物名「ぶどう」に適用病害虫名「チャノキイロアザミウマ」、「コガネムシ類」を追加する。
- ・作物名「すもも」に適用病害虫名「シンクイムシ類」を追加する。
- ・作物名「もも」に適用病害虫名「カメムシ類」、「ハマキムシ類」を追加する。
- ・作物名「おうとう」に適用病害虫名「マメコガネ」、「コスカシバ」を追加する。
- ・作物名「おうとう」の適用病害虫名「チャバネアオカメムシ」を「カメムシ類」に変更する。
- ・作物名「茶」に適用病害虫名「ヨモギエダシャク」を希釈倍数「1000倍」として追加する。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	シクラニプロール を含む農薬の 総使用回数
りんご	シンクイムシ類 キンモンホソガ ハマキムシ類 ケムシ類 <b>ギンモンハモグリガ</b> <b>ヒメボクトウ</b>	2000倍	200～700L	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内
なし	シンクイムシ類 ハマキムシ類 <b>カメムシ類</b>						
ぶどう	ケムシ類 <b>チャノキイロアザミウマ</b> <b>コガネムシ類</b>						
すもも	ケムシ類 <b>シンクイムシ類</b>						
もも	シンクイムシ類 モモハモグリガ <b>カメムシ類</b> <b>ハマキムシ類</b>						
おうとう	ハマキムシ類 <b>カメムシ類</b> オウトウショウジョウバエ <b>マメコガネ</b> <b>コスカシバ</b>	1000倍	200～400L	摘採3日前 まで	1回	1回	
茶	チャハマキ チャノコカクモンハマキ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメコバイ <b>ヨモギエダシャク</b> チャノホソガ						2000倍

8月8日 適用拡大  
**クロロIPC「石原」**

＜作物名の削除＞

- ・作物名「とうもろこし」を削除する。

＜使用時期の変更＞

- ・作物名「アスパラガス(定植畑)」の使用時期を「収穫21日前まで」から「収穫30日前まで」に変更する。
- ・作物名「そらまめ」の使用時期を「収穫60日前まで」から「収穫90日前まで」に変更する。

★本内容は使用制限となる負の適用拡大です。

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	IPCを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
アスパラガス (定植畑)	一年生雑草	培土後雑草発生前 但し <b>収穫30日前まで</b>	250～300ml	70～100L	1回	全面土壌 散布	1回
そらまめ		中耕培土後 但し <b>収穫90日前まで</b>	200ml				

弊社では、圃場の土壌を御送付頂き、その土壌中のセンチウ量を測定し、防除計画の御参考にして頂く無料サービスを継続実施しております。

**ISK** 石原バイオサイエンス株式会社 本社 普及部

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2

TEL 03-6256-9170 FAX 03-3263-2078

ホームページ アドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>



センチウ検定  
**無料キャンペーン**  
 実施中